

1. 自立된 100教会의 設立
2. 主님의 일꾼의 養成
3. 작은 이웃들과 함께 사는 宣敎
4. 在日同胞의 삶에 同參하는 奉仕



THE GOSPEL NEWS

発行所 福音新聞社
〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-18
電話 03(3202)5398番
発行人 李大京・編集人 姜栄一
毎月1回1日発行 購読料 1部50円
昭和38年9月20日 第3種郵便物認可
印刷所・青丘文化社
Tel.0474-24-7461 Fax.0474-24-7469

和解하며 함께 사는 教会로

新年
메시지

総会長 李大京

一九九六年 새해를 맞
이하여 總會의 모든 教
會와 성도님에게 새해인
사를 드립니다. 그리고 여
러분의 家庭과 섬기시는
教會위에 그리스도의 平
康이 임하시기를 祈願합
니다.
歲月이 빨리 묵은해는
가고 새해가 왔습니다.
새해라야 별것 아니지만
사람들은 누구나 금년에
는 "하고 새로운 希望과 抱
負를 가져보게 됩니다.
지나간 해와 새로 오는
해사이며 무슨 根本의 인
다름이 있는 것은 아니
지만 달과 해로 토각지
어진 세월속에 自身을 反
省하고 삶의 意慾을 새
롭게 할 수 있는 分岐點
을 느낄 수 있는 일인데
나로 새롭다고 使徒마울



「渡辺禎雄聖書版畫集」から

은 告白합니다. 人間이
상 옛모양대로이고 생
하고 나하는 일들이
態依然하다면 새해의 祝
願을 맞을 수 없는 것입
니다. 해를 거듭 할수록
나익 먹는다는 것이 意
味있는 것이 아니라 해
와 함께 자란다는 것,
結實한다는 것, 完熟한
는 것 등 이아말로 새
의 뜻을 품겨주는 것입
니다.
一九九五年은 그야말로
日本社会는 물론 우리
祖国인 南北韓이 엄청난
程度로 多事多難했던 해
였다고 생각됩니다. 그런
가운데서 우리 總會의 모
든 教會는 큰 자라는 없
어도 그런대로 後退함없
이 새해를 맞이하게 되
었습니다. 一九九六年은 跳
躍과 前進의 해가 되기
를 期待해 봅니다.
저는 새해를 맞이해서
우리 總會 모든 教會가 이
땅에서 하나로의 宣敎使
役을 해나가는 데 있어
며한 姿勢로 해나가야 할
까하는 問題에 대해 다
음과 같은 생각을 말씀
드리고 싶습니다.
먼저, 和解를 이루어가
는 教會입니다.
教會마다 다름과 分裂이
있어 온 것은 初代教會
때부터 있어 온 事實이
지만 今도 各教會안에
서 성도간의 反목질시의
狀態는 正 말로 深刻性을
띠고 있는 것입니다.
이것은 우리들이 同胞
會에 그리스도의 福音을
宣道해 갈 때에 크나큰
장애요素라 할 수 있습니
다. 우리는 「그리스도가
너희를 받아들이라」는 사
도바울의 말에 귀를 기울
여야 하겠습니다. 다시
한번 주님의 가르치신

祈禱를 再吟味하면서 그
리스도께서 피로 값주고
사신 兄弟姊妹를 理解하
고 받아들이는 역사가 일
어나기를 바랍니다. 그것
이 하나님께 榮光되는 일
이며, 나아가서는 南北이
서로 和解하는 하나의 큰
움직임으로서 먼저 나
가 믿습니다.
다음은 함께 사는
教會입니다.
今日 우리가 「在日」을
살아가는 곳은 바로 日
本입니다. 日本의 政治・
經濟・社會의 組織속에서
살아가야만 합니다. 그리
스도인만이 아니라, 日常
生活 가운데서 역시 日
本人과의 사귀는 많은 것
은 事實입니다. 특히 日
常生活 가운데서 언제나
周圍의 눈치를 보면서 서
사는 것이 우리의 現實이
아닌가 생각되어질 때도
있습니다.
또한 우리 在日大韓基
督教會는 多様な 멤버로
教會가 構成되어있습니다.
十年前과 같이 「在日」이
라고만 말할 수 없게 되
었습니다. 解放前 日本에
오신 一世들, 日本에서 태
어나서 日本의 教育・文
化의 影響을 받은 二・
三世들 또는 本國에서 오
신 성도들 그리고 日本人
성도들... 같은 韓國人이
면서도 文化背景에다 思
考方式, 信徒生活의 스타
일들이 서로 다르다는 事
실입니다. 그러므로 우리
들은 서로 理解하고 받
들어주는 열린 마음을가
져야 합니다. 教會안에서
信仰의 態度라든가 敬虔
의 形式등에 다른점이 있
는 것도 人間의 尺度나
判斷으로서 생각하는 것이
아니라 서로가 예수그리
스도의 사랑을 통해서 하
는 새해에 주님의 祝
福이 온教會와 聖徒에게
充滿하시기를 祝願합니다.

새해에도 주님의 사랑이 충만하시기를 기원합니다

【關東地方會】

東京 牧師 申鉉錫	品川 長牧 李慶起	東京 牧師 吳京	東京 副牧 李鄭秀	東京 牧師 金楊君	西 牧師 金朴太	船橋 牧師 金鍾	千代田 牧師 李激	大宮 牧師 洪性	日 牧師 鄭傳仁	つくば 牧師 趙重	水戸 牧師 金傳	山形 牧師 金傳	仙台 牧師 金傳	新潟 牧師 閔永	三 牧師 金傳	札幌 牧師 李俊
東京グロリア教会	品川教会	東京新宿教会	東京金楊君	西金楊君	船橋金鍾	千代田李激	大宮洪性	日鄭傳仁	つくば趙重	水戸金傳	山形金傳	仙台金傳	新潟閔永	三金傳	札幌李俊	
東京グロリア教会	品川教会	東京新宿教会	東京金楊君	西金楊君	船橋金鍾	千代田李激	大宮洪性	日鄭傳仁	つくば趙重	水戸金傳	山形金傳	仙台金傳	新潟閔永	三金傳	札幌李俊	

金金
東海
洙奎

発題3 社会局
多様化時代の中の宣教的使命



●金永秀局長の発題

多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

●質疑応答
発題に対して、「九一年

組織は新たなエリート集団の形成にならないか」「マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化の必要性は、何処にあるのか」という疑問も呈示された。これに對し、「総会は日立閣下以来、日本における人権獲得の働きをしているし、その成果をアジアの人たちに分かち合う責任と義務を私たちは負っている。それがまさに我々の宣教的使命ではないか」という発言がされた。そして「地方の民団の指導者として、老人問題の専門家として、青年や地域の指導者としての働きができる、そのような指導者の養成が望まれる」と姜総務から表明があった。

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

●質疑応答
発題に対して、「九一年

組織は新たなエリート集団の形成にならないか」「マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化の必要性は、何処にあるのか」という疑問も呈示された。これに對し、「総会は日立閣下以来、日本における人権獲得の働きをしているし、その成果をアジアの人たちに分かち合う責任と義務を私たちは負っている。それがまさに我々の宣教的使命ではないか」という発言がされた。そして「地方の民団の指導者として、老人問題の専門家として、青年や地域の指導者としての働きができる、そのような指導者の養成が望まれる」と姜総務から表明があった。

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

●質疑応答
発題に対して、「九一年

組織は新たなエリート集団の形成にならないか」「マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化の必要性は、何処にあるのか」という疑問も呈示された。これに對し、「総会は日立閣下以来、日本における人権獲得の働きをしているし、その成果をアジアの人たちに分かち合う責任と義務を私たちは負っている。それがまさに我々の宣教的使命ではないか」という発言がされた。そして「地方の民団の指導者として、老人問題の専門家として、青年や地域の指導者としての働きができる、そのような指導者の養成が望まれる」と姜総務から表明があった。

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

●質疑応答
発題に対して、「九一年

組織は新たなエリート集団の形成にならないか」「マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化の必要性は、何処にあるのか」という疑問も呈示された。これに對し、「総会は日立閣下以来、日本における人権獲得の働きをしているし、その成果をアジアの人たちに分かち合う責任と義務を私たちは負っている。それがまさに我々の宣教的使命ではないか」という発言がされた。そして「地方の民団の指導者として、老人問題の専門家として、青年や地域の指導者としての働きができる、そのような指導者の養成が望まれる」と姜総務から表明があった。

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●全体討論
在日同胞社会の中の教会の役割
共生社会Ⅱビビンパにはコチュジャンが



●金永秀局長の発題

各発題と質疑応答を受けて、司会の李清一牧師から論議の整理がされた。すなわち今回の協議会の目的は①在日大韓教会の解放後五十年を総括すること、②在日のコンセンサスを探ること、③コンセンサスのあるものから具体化していくこと。そしてこの協議会で、それらを担う使命は何か、今日果たさなくてはならないものはなにか、各局間の連携は可能か一致点を見いだすことである。

まず取り組みの基本姿勢として、「多様化に對処し具体化できる枠組みを設定できないか。いくつかの案を整理し、再編成する勇氣が必要だ。たとえば教育局などでは仕事が多すぎ、何もう具体化できないことがあつた」との意見が出された。

次に、「福音新聞に宣教師十周年に向かう目標が青年たちとの交流や、リーダーの養成、九〇周年に向けての歴史学習、宣教育理念の研究などを行なう。将来の教会の担い手としての自覚と種々の訓練が必要だ。総会との密な関係の中で、これらの活動を行なう。教会の内外の生活を通して、教会のあるべき姿、開放された教会の姿を求めていきたい。韓国の青年会や指導者研修会、八月の全協修養会と高校生夏季学校を開催する。主事の選任を、早急にしたい。聖書講演会

の開催を各地方会にお願いする。青年会が賛助会員募集などで個教会を訪問するが、宜しく願いたい。」

●徐潤純全協代表委員のコメント
全協に参加しない教会の青年たちとの交流や、リーダーの養成、九〇周年に向けての歴史学習、宣教育理念の研究などを行なう。将来の教会の担い手としての自覚と種々の訓練が必要だ。総会との密な関係の中で、これらの活動を行なう。教会の内外の生活を通して、教会のあるべき姿、開放された教会の姿を求めていきたい。韓国の青年会や指導者研修会、八月の全協修養会と高校生夏季学校を開催する。主事の選任を、早急にしたい。聖書講演会

の開催を各地方会にお願いする。青年会が賛助会員募集などで個教会を訪問するが、宜しく願いたい。」

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

●質疑応答
発題に対して、「九一年

組織は新たなエリート集団の形成にならないか」「マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化の必要性は、何処にあるのか」という疑問も呈示された。これに對し、「総会は日立閣下以来、日本における人権獲得の働きをしているし、その成果をアジアの人たちに分かち合う責任と義務を私たちは負っている。それがまさに我々の宣教的使命ではないか」という発言がされた。そして「地方の民団の指導者として、老人問題の専門家として、青年や地域の指導者としての働きができる、そのような指導者の養成が望まれる」と姜総務から表明があった。

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

●質疑応答
発題に対して、「九一年

組織は新たなエリート集団の形成にならないか」「マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化の必要性は、何処にあるのか」という疑問も呈示された。これに對し、「総会は日立閣下以来、日本における人権獲得の働きをしているし、その成果をアジアの人たちに分かち合う責任と義務を私たちは負っている。それがまさに我々の宣教的使命ではないか」という発言がされた。そして「地方の民団の指導者として、老人問題の専門家として、青年や地域の指導者としての働きができる、そのような指導者の養成が望まれる」と姜総務から表明があった。

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

●質疑応答
発題に対して、「九一年

組織は新たなエリート集団の形成にならないか」「マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化の必要性は、何処にあるのか」という疑問も呈示された。これに對し、「総会は日立閣下以来、日本における人権獲得の働きをしているし、その成果をアジアの人たちに分かち合う責任と義務を私たちは負っている。それがまさに我々の宣教的使命ではないか」という発言がされた。そして「地方の民団の指導者として、老人問題の専門家として、青年や地域の指導者としての働きができる、そのような指導者の養成が望まれる」と姜総務から表明があった。

●金永秀局長の発題
多様化の中で在日自身が混乱している。しかし教会の普遍原理の中に希望を見いだす活動を目指したい。具体的には、①人権シンポジウムの継続、②四局連席会議の開催と共に、在日の痛み、在日の教会を去る青年の悩みなどを考え、対策を考える場の提供、③普遍的なものに目を向けるために一九九四年国際マイノリティ会議フォローアップ委員会の組織化、④クリスチャン医師会の組織化、⑤性差別特別委員会の設置について総会決議案の推進、⑥宗教法人法に対する研究討議の場を作ることなど。

●崔春子講師のコメント
在日を受け入れることのできない日本の現況下で、一世の血と汗の結晶である教会が、在日の主体性を受容する母胎となれない現実を把握し、主体のよりどころとなる努力と活動が必要だ。多様化の時代にあつて情報の発信地としての教会のあり方を模索すべきだ。宗教法人法「改正」問題では情報の不足を痛感する。教会の行き詰まりの打開は、女性(母親)の意識変革と、実務的働き手の訓練を通して指導者層の拡大を目指すしなければならない。

設問があり、それをめぐって論議が交わされた。「牧会者としての現場の思いは、全てのことに對処できないので葛藤が生じ、二・三世の中にあつては、むしろ逆差別を感じることもある。言葉では共生というが、難しい」「ビビンパは、混ぜただけでは味がなく、コチュジャンなどの味付けが必要だ。それは牧師の配慮などの細かい心遣いではないか。多様化したものをつなげるものが、必要だ。また、教会や信徒によって、コチュジャンの入れ方が違わなくてはならない」「八〇年代半ばからの来日者と日本人の結婚・離婚・法的地位の問題や、労働者の問題などは我が教会の課題ともなっている。教会の牧会的配慮でどう取り扱えるか。煩わしいから扱えないとして、KCCなどに押しつけられても問題の解決にはならない」等々の意見が出された。

在日同胞社会の多様化の中で人材をどのように養成するかについては、「伝道団の中に青年を含めるか。現場研修のような考えをしなくてはどうか」「神学校のカリキュラムの問題や、誰がどのような能力を持っているのかなどの発掘が大切だ」「色々なところで人材を求めている。そのようにな所へ派遣できる人材の養成が大切だし、国際会議などへ参加し、その成果が発揮でき、世代交替がスムーズにいけるように人材を養成することが大切だ」という指摘がされた。

また、「成人信徒の訓練をどのようにするか。信徒が教会教育に参加することによってその実力を発揮できるようにすることが必要

だ」とする意見や、「女性の問題を抜きにしては問題の解決はないと思う。この場に女性会の人がないのは納得できない。次世代との対話の第一線にあるのは母親であり、総会の生命線だ」との意見が出された。

これに對して、姜総務が「女性会の問題は総会の枠の中で、在日の歴史的使命を共に担っていくという姿勢でやるべきことを共有できればと願う」と答え、続いて、「総会時の各局の活動方針は従来のものを出ていない。各局との連帯を見出して調整できれば」との思いがある。もう一度協議会を持ち、総会として深めていきたい」と表明した。

最後に司会の李清一牧師が、「今回何が私たちの課題であるかが話し合えた。多様化というキーワードをどう受け止めるかが問題である。総会は二〇年来人権の問題を取り組んできた中で、日本の単一社会に對する問題として、日本社会が多様化するプラスの面を考えようとしてきた。と同時にその反面、多様化は私たちの中にも混乱をもたらした。しかしその経験は、自分たちの共同体で多様性を受け止めることで、一つのモデルを作る創造的産みの苦しみをすると共に同胞社会に、日本社会に示す役割を担う健全な意味を生かせるのではないか。理念と方向性の問題は、次回話し合いたい」と締め括った。

●日立伝道所・日立市大沼町一〇九一〇
●千葉教会(李敬然牧師)・千葉市若葉区高品町一五八九一

謹賀新年

【関西地方会】

新 儀 教 会
牧 師 崔 炳 鉞
名 譽 牧 師 金 錫 壽
長 老 尹 金 洵
文 金 載 昌
金 韓 在 大
金 正 勝
金 俞 成
金 吳 曹

京 都 南 部 教 会
牧 師 李 大 成
名 譽 牧 師 李 明 成
長 老 李 寧 永
李 金 鳳
李 金 趙
李 金 趙

京 都 東 山 伝 道 所
牧 師 趙 金 鳳
名 譽 牧 師 趙 金 鳳
長 老 趙 金 鳳
趙 金 鳳
趙 金 鳳
趙 金 鳳

岐 阜 教 会
牧 師 金 朱 英
名 譽 牧 師 金 朱 英
長 老 金 朱 英
金 朱 英
金 朱 英
金 朱 英

大 垣 教 会
牧 師 徐 永 聖
名 譽 牧 師 徐 永 聖
長 老 徐 永 聖
徐 永 聖
徐 永 聖
徐 永 聖

桑 名 教 会
牧 師 金 道 正
名 譽 牧 師 金 道 正
長 老 金 道 正
金 道 正
金 道 正
金 道 正

長 野 教 会
牧 師 金 道 正
名 譽 牧 師 金 道 正
長 老 金 道 正
金 道 正
金 道 正
金 道 正

名 古 屋 教 会
牧 師 金 道 正
名 譽 牧 師 金 道 正
長 老 金 道 正
金 道 正
金 道 正
金 道 正

名 古 屋 教 会
牧 師 金 道 正
名 譽 牧 師 金 道 正
長 老 金 道 正
金 道 正
金 道 正
金 道 正

名 古 屋 教 会
牧 師 金 道 正
名 譽 牧 師 金 道 正
長 老 金 道 正
金 道 正
金 道 正
金 道 正

名 古 屋 教 会
牧 師 金 道 正
名 譽 牧 師 金 道 正
長 老 金 道 正
金 道 正
金 道 正
金 道 正

名 古 屋 教 会
牧 師 金 道 正
名 譽 牧 師 金 道 正
長 老 金 道 正
金 道 正
金 道 正
金 道 正

試取委員長 尹宗銀